

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版(使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京丹後市庁舎増築棟	階数	地上3F
建設地	京都府京丹後市峰山町杉谷889番	構造	RC造
用途地域	指定なし 法22条地区	平均居住人員	120 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2023年10月17日
敷地面積	13,886 m ²	作成者	
建築面積	1,552 m ²	確認日	2023年10月17日
延床面積	3,936 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 77%, ③上記②以外の 77%, ④上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 峰山庁舎の正面性を確保した増築棟配置により、南側道路からの見通しを確保し、風や視線の抜けなどに配慮した。また、建物内においてもゆとりのある空間づくりに努め、日常的にストレスを感じさせることのない建物計画とした。		建築に関する持続可能な開発目標(SDGs)の実現に積極的に取り組む。
Q1 室内環境 吹抜けや光庭を設置し、自然光の効率的な利用による光・視環境への配慮。F☆☆☆☆建材の利用による空気質環境への配慮など、室内環境の向上を行い、来庁者や職員等の健康、快適性、知的生産性を確保できる建物計画	Q2 サービス性能 バリアフリー、職員専用ラウンジ(リフレッシュスペース)の確保などにより、使いやすい建物とした。また、耐震性能1.5倍を確保、節水型機器の採用、非常時の水確保などによる災害対応、設備の更新対応など、建物がより永	Q3 室外環境(敷地内) 来庁者アプローチや親水広場に常緑の中高木を積極的に取り入れ、小鳥や小動物などを積極的に呼び込み生物多様性に配慮した。また、地域利用可能なみんなの広場の設置や、駐車場を正形に配置し、イベント利用や災害時
LR1 エネルギー 建物外皮断熱性能を高め空調用エネルギー消費量の低減に配慮した。また、光庭を設け自然採光・自然換気など自然エネルギーを積極的に利用可能とした。設備システムの高効率化を行い、建築物の環境負荷低減に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具の採用による水資源の保護、リサイクル材を使用した再生資源の活用、スケルトンインフィル工法による将来変換性の確保、F☆☆☆☆建材使用などにより、限りある資源の有効活用に配慮した。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 削減に貢献し地球温暖化への配慮、自転車置場、駐車場を適切に配置し、交通処理負荷抑制などにて地域環境などに配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京丹後市庁舎増築棟	階数	地上3F
建設地	京都府京丹後市峰山町杉谷889番地	構造	RC造
用途地域	指定なし 法22条地区	平均居住人員	120 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2023年10月17日
敷地面積	13,886 m ²	作成者	
建築面積	1,552 m ²	確認日	2023年10月17日
延床面積	3,936 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 77%

③上記+②以外の 77%

④上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健) 2.2
4(教育) 2.3
5(ジェンダー) 2.3
6(水・衛生) 2.1
7(エネルギー) 2.3
8(経済・雇用) 2.6
9(インフラ) 2.6
11(都市) 2.4
12(生産・消費) 2.2
13(気候変動) 2.3
15(陸上資源) 1.6
17(実施手段) 2.1

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
適合	その他	
峰山庁舎の正面性を確保した増築棟配置により、雨側道路からの見通しを確保し、風や視線の抜けなどに配慮した。また、建物内においてもゆとりのある空間づくりに努め、日常的にストレスを感じさせない建物計画とした。	建築に関する持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に積極的に取り組む。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
吹抜けや光庭を設置し、自然光の効率的な利用による光・視環境への配慮、F☆☆☆☆建材の利用による空気質環境への配慮など、室内環境の向上を行い、来庁者や職員等の健康、快適性、知的生産性を確保できる建物計画	バリアフリー、職員専用ラウンジ (リフレッシュスペース) の確保などにより、使いやすい建物とした。また、耐震性能1.5倍を確保、節水型機器の採用、非常時の水確保などによる災害対応、設備の更新対応など、建物がより永	来庁者アプローチや親水広場に常緑の中高木を積極的に取り入れ、小鳥や小動物などを積極的に呼び込み生物多様性に配慮した。また、地域利用可能なみんなの広場の設置や、駐車場を正形に配置し、イベント利用や災害時
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮断熱性能を高めた空調用エネルギー消費量の低減に配慮した。また、光庭を設け自然採光・自然換気など自然エネルギーを積極的に利用可能とした。設備システムの高効率化を行い、建築物の環境負荷低減に配慮した。	節水型器具の採用による水資源の保護、リサイクル材を使用した再生資源の活用、スケルトンインフィル工法による将来変容性の確保、F☆☆☆☆建材使用などにより、限りある資源の有効活用に配慮した。	LCCO2削減に貢献し地球温暖化への配慮、自転車置場、駐車場を適切に配置し、交通処理負荷抑制などにて地域環境などに配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される